



平成30年12月期
第1四半期
〈1～3月〉

連結決算補足資料

平成30年4月23日

コクヨ株式会社

(コード番号 7984)

財務経理本部

お問い合わせ先 : グループ執行役員 財務経理本部長 梅田 直孝

TEL : 06-6976-1221(代表)

URL : <http://www.kokuyo.co.jp/>

も く じ

1. 損益計算書の状況	
1-1 連結情報	…… P. 1
1-2 売上高	…… P. 2
1-3 売上総利益	…… P. 3
1-4 販売費及び一般管理費	…… P. 4
1-5 営業利益及び経常利益	…… P. 5
1-6 親会社株主に帰属する四半期純利益	…… P. 6
2. 貸借対照表の状況	…… P. 7
3. キャッシュフロー・設備投資の状況	…… P. 8
4. 事業セグメントの損益状況	
4-1 ステーションナリー関連事業	…… P. 9
4-2 ファニチャー関連事業	…… P.10
4-3 通販・小売関連事業	…… P.11
5. 30年12月期の見通し	…… P.12
6. 主なトピックス	…… P.13

(注)この資料に記述されている予想数値は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

1. 損益計算書の状況

◆1-1 連結情報

売上高は、オフィス家具販売が好調に推移したものの、店舗用什器の製造・販売等を行うストア事業の譲渡(※)による減少影響、ステーションリー関連事業及び通販・小売関連事業の減収により、前年同期比1.9%減の881億円となりました。売上総利益率にこだわった施策の継続的な推進により、売上総利益率は0.8ポイント向上の37.5%となり、売上総利益は、前年並みの330億円となりました。一方、販売費及び一般管理費は、前年同期比1.2%増の240億円、売上高販管費率は27.3%となりました。以上により、営業利益は、前年同期比2.5%減の89億円、経常利益は、前年同期比1.2%減の91億円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前第1四半期連結累計期間に繰延税金資産の回収可能性の見直し等による法人税等の減少があった反動により、前年同期比12.0%減の70億円となりました。

※平成30年1月1日に、ファニチャー関連事業のうち、店舗用什器の製造・販売等を行うストア事業を会社分割し、三協立山(株)に承継しました。

(単位:百万円)

	29年12月期 第1四半期	30年12月期 第1四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	89,877	88,128	△1,749	△1.9%
売上総利益 (率)	33,009 (36.7%)	33,061 (37.5%)	+52 (+0.8p)	+0.2%
販売費及び一般管理費 (率)	23,789 (26.5%)	24,070 (27.3%)	+281 (+0.8p)	+1.2%
営業利益 (率)	9,219 (10.3%)	8,991 (10.2%)	△228 (△0.1p)	△2.5%
経常利益 (率)	9,274 (10.3%)	9,161 (10.4%)	△113 (+0.1p)	△1.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (率)	8,030 (8.9%)	7,064 (8.0%)	△966 (△0.9p)	△12.0%

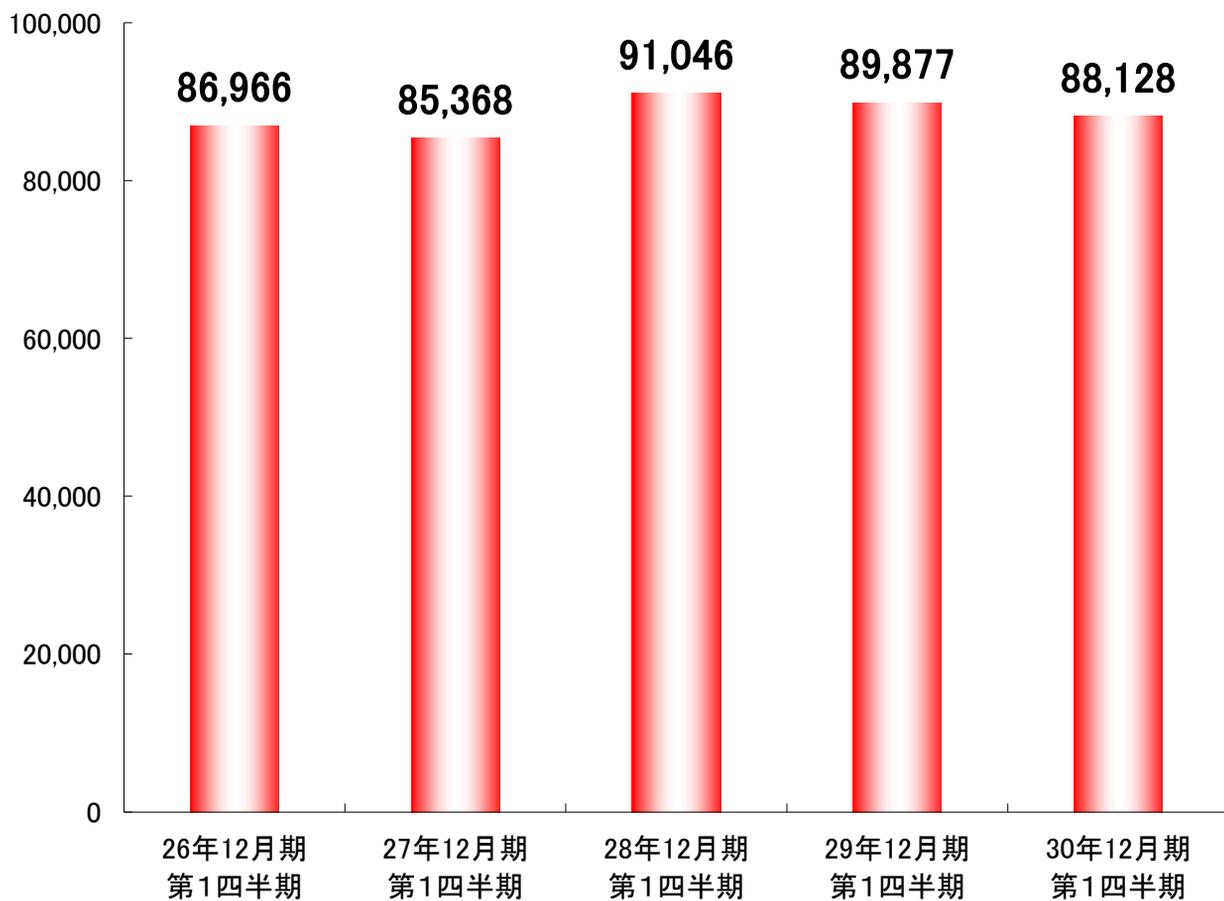
(注)連結子会社21社・持分法適用関連会社1社

1. 損益計算書の状況

◆1-2 売上高

売上高は、オフィス家具販売が好調に推移したものの、店舗用什器の製造・販売等を行うストア事業の譲渡による減少影響、ステーションリ関連事業及び通販・小売関連事業の減収により、前年同期比1.9%減の881億円となりました。

(単位:百万円)



(単位:百万円)

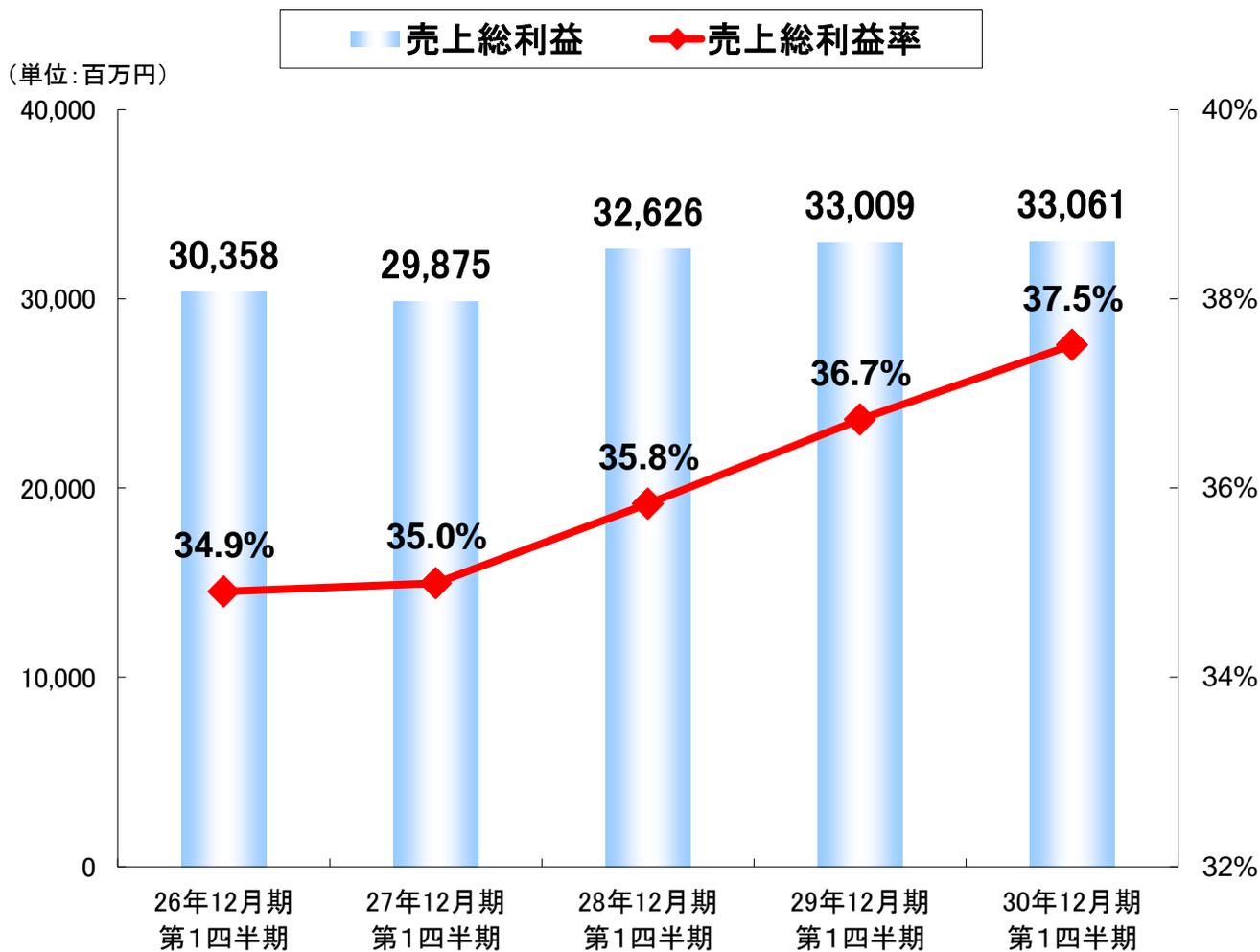
	26年12月期 第1四半期	27年12月期 第1四半期	28年12月期 第1四半期	29年12月期 第1四半期	30年12月期 第1四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	86,966	85,368	91,046	89,877	88,128	△1,749	△1.9%
売上総利益 (率)	30,358 (34.9%)	29,875 (35.0%)	32,626 (35.8%)	33,009 (36.7%)	33,061 (37.5%)	+52 (+0.8p)	+0.2%
販売費及び一般管理費 (率)	22,854 (26.3%)	23,400 (27.4%)	23,414 (25.7%)	23,789 (26.5%)	24,070 (27.3%)	+281 (+0.8p)	+1.2%
営業利益 (率)	7,504 (8.6%)	6,475 (7.6%)	9,212 (10.1%)	9,219 (10.3%)	8,991 (10.2%)	△228 (△0.1p)	△2.5%
経常利益 (率)	7,561 (8.7%)	6,732 (7.9%)	9,088 (10.0%)	9,274 (10.3%)	9,161 (10.4%)	△113 (+0.1p)	△1.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	4,439 (5.1%)	4,101 (4.8%)	6,459 (7.1%)	8,030 (8.9%)	7,064 (8.0%)	△966 (△0.9p)	△12.0%

1. 損益計算書の状況

◆1-3 売上総利益

売上総利益は、減収による減少があったものの、売上総利益率の改善により、前年並みの330億円となりました。

売上総利益率は、売上総利益率にこだわった施策の継続的な推進により、0.8ポイント向上し37.5%となりました。



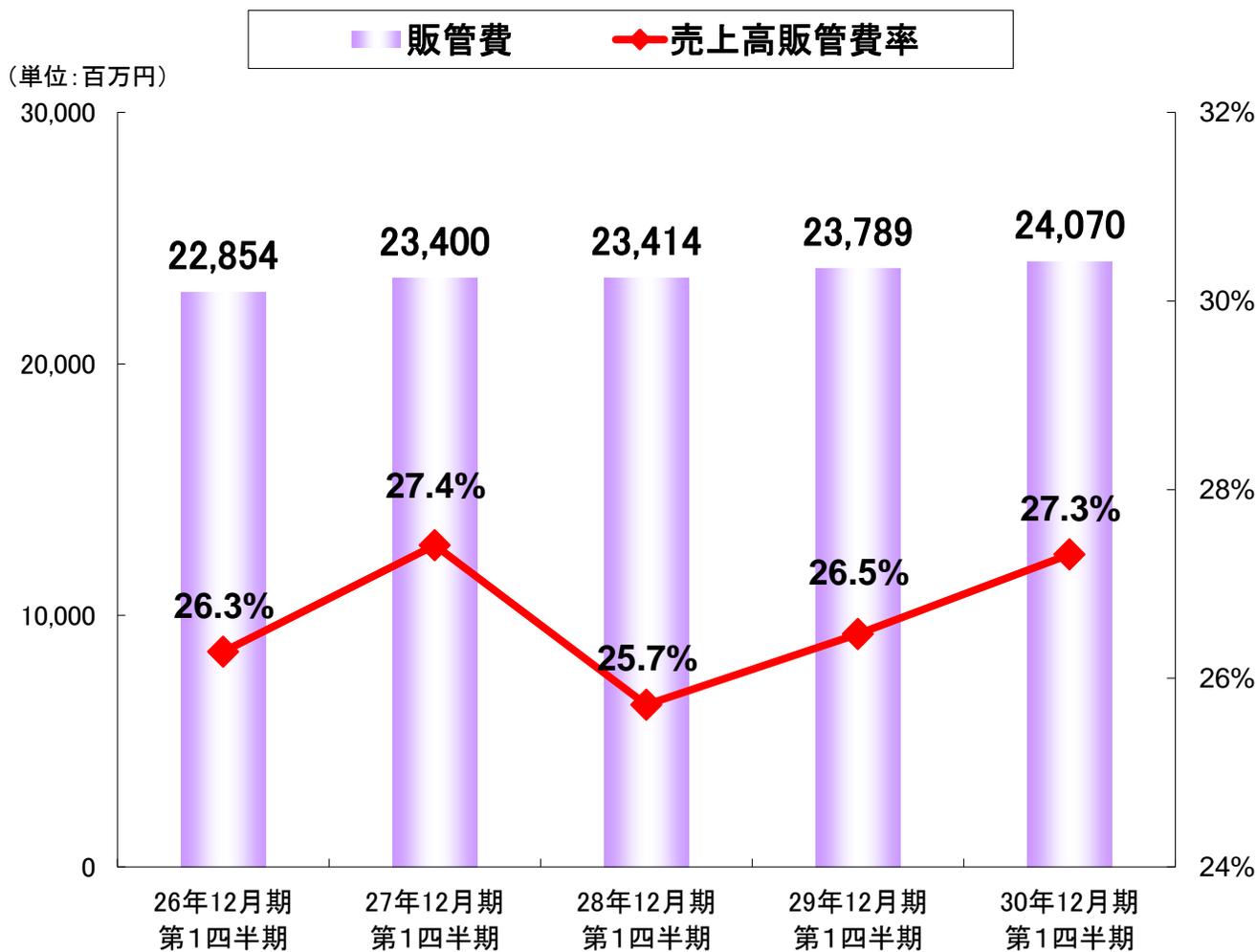
(単位: 百万円)

	26年12月期 第1四半期	27年12月期 第1四半期	28年12月期 第1四半期	29年12月期 第1四半期	30年12月期 第1四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	86,966	85,368	91,046	89,877	88,128	△1,749	△1.9%
売上総利益 (率)	30,358 (34.9%)	29,875 (35.0%)	32,626 (35.8%)	33,009 (36.7%)	33,061 (37.5%)	+52 (+0.8p)	+0.2%
販売費及び一般管理費 (率)	22,854 (26.3%)	23,400 (27.4%)	23,414 (25.7%)	23,789 (26.5%)	24,070 (27.3%)	+281 (+0.8p)	+1.2%
営業利益 (率)	7,504 (8.6%)	6,475 (7.6%)	9,212 (10.1%)	9,219 (10.3%)	8,991 (10.2%)	△228 (△0.1p)	△2.5%
経常利益 (率)	7,561 (8.7%)	6,732 (7.9%)	9,088 (10.0%)	9,274 (10.3%)	9,161 (10.4%)	△113 (+0.1p)	△1.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	4,439 (5.1%)	4,101 (4.8%)	6,459 (7.1%)	8,030 (8.9%)	7,064 (8.0%)	△966 (△0.9p)	△12.0%

1. 損益計算書の状況

◆1-4 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は、前年同期比1.2%増の240億円となりました。
売上高販管費率は、27.3%となりました。



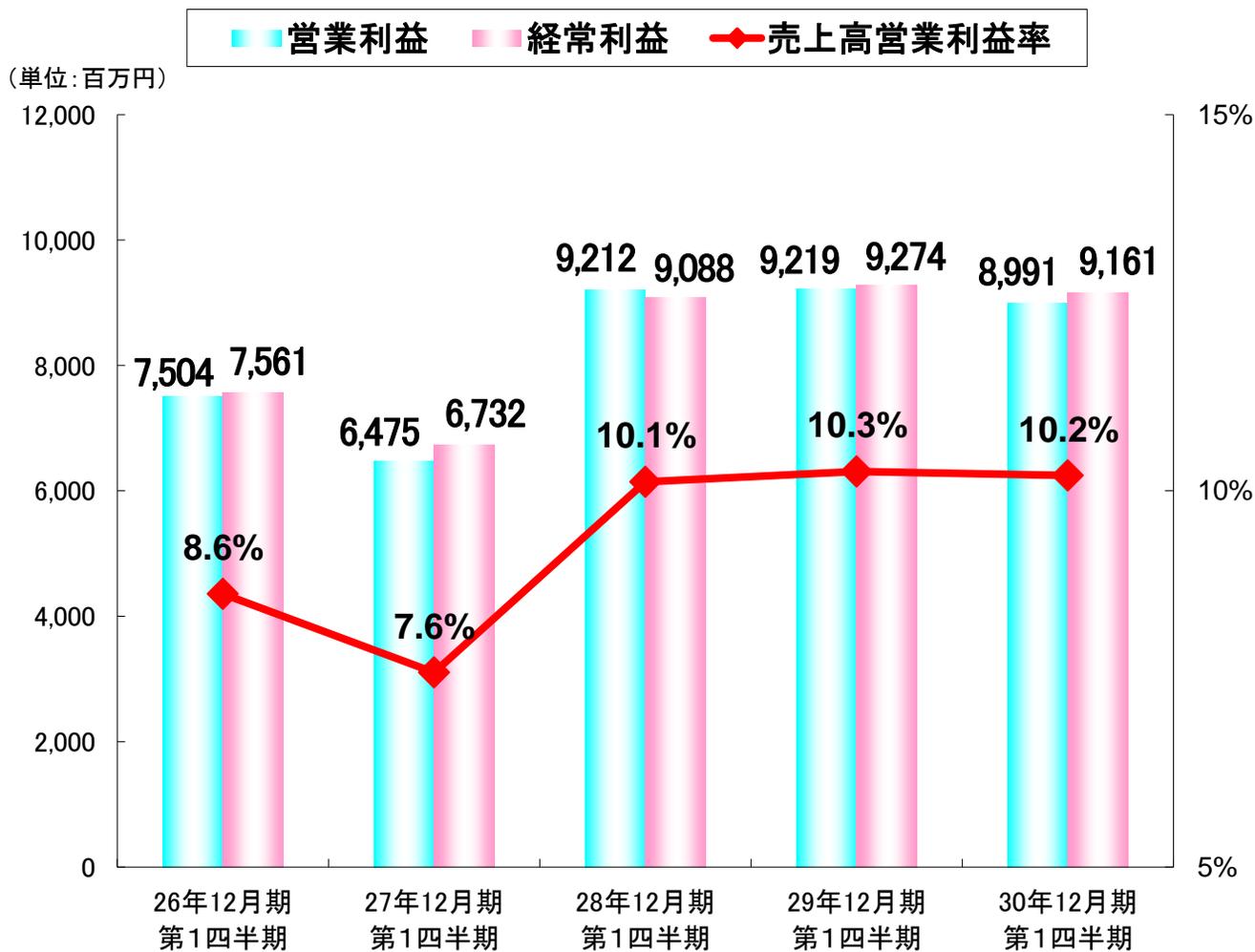
(単位: 百万円)

	26年12月期 第1四半期	27年12月期 第1四半期	28年12月期 第1四半期	29年12月期 第1四半期	30年12月期 第1四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	86,966	85,368	91,046	89,877	88,128	△1,749	△1.9%
売上総利益 (率)	30,358 (34.9%)	29,875 (35.0%)	32,626 (35.8%)	33,009 (36.7%)	33,061 (37.5%)	+52 (+0.8p)	+0.2%
販売費及び一般管理費 (率)	22,854 (26.3%)	23,400 (27.4%)	23,414 (25.7%)	23,789 (26.5%)	24,070 (27.3%)	+281 (+0.8p)	+1.2%
営業利益 (率)	7,504 (8.6%)	6,475 (7.6%)	9,212 (10.1%)	9,219 (10.3%)	8,991 (10.2%)	△228 (△0.1p)	△2.5%
経常利益 (率)	7,561 (8.7%)	6,732 (7.9%)	9,088 (10.0%)	9,274 (10.3%)	9,161 (10.4%)	△113 (+0.1p)	△1.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	4,439 (5.1%)	4,101 (4.8%)	6,459 (7.1%)	8,030 (8.9%)	7,064 (8.0%)	△966 (△0.9p)	△12.0%

1. 損益計算書の状況

◆1-5 営業利益及び経常利益

営業利益は、前年同期比2.5%減の89億円となりました。
 経常利益は、前年同期比1.2%減の91億円となりました。



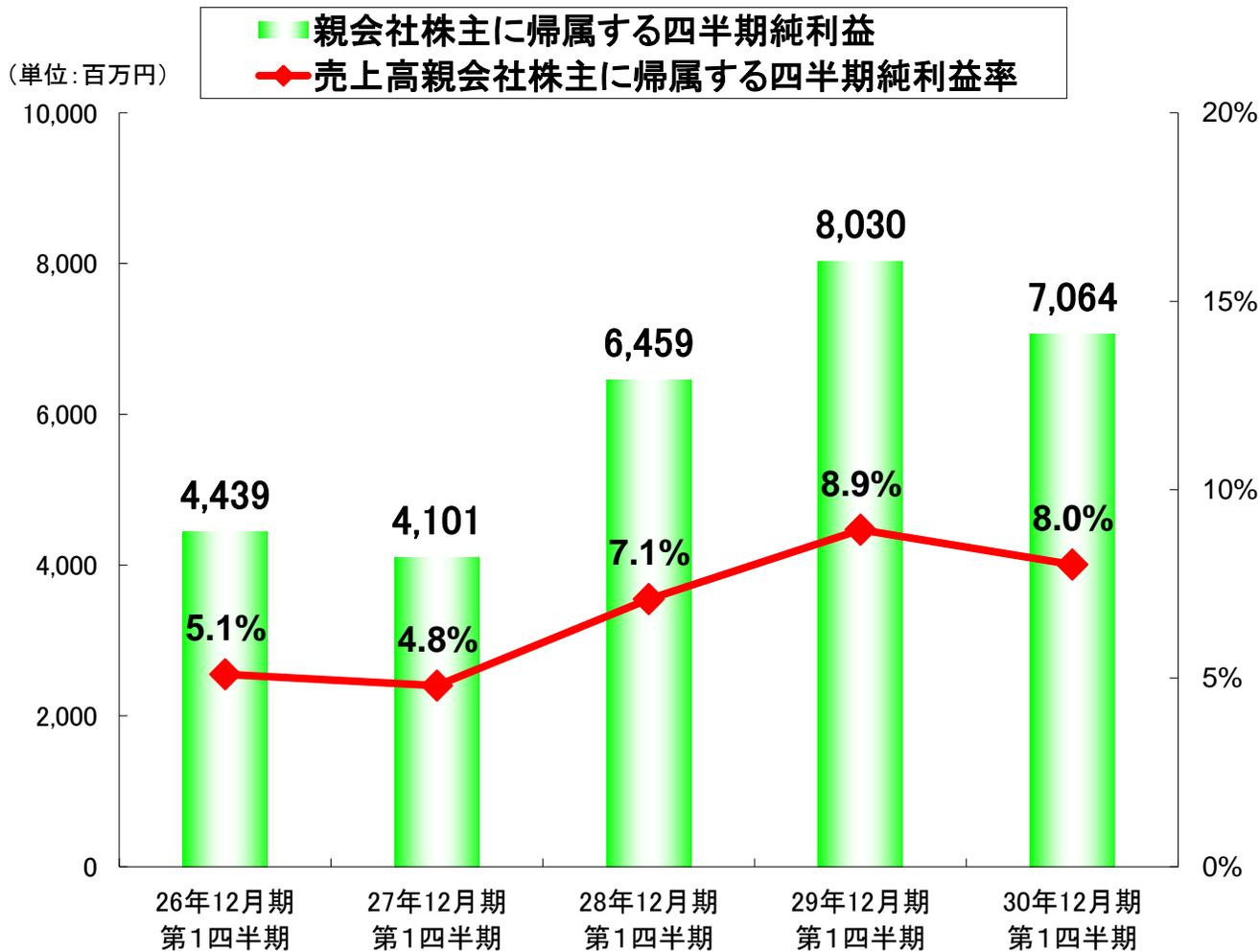
(単位: 百万円)

	26年12月期 第1四半期	27年12月期 第1四半期	28年12月期 第1四半期	29年12月期 第1四半期	30年12月期 第1四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	86,966	85,368	91,046	89,877	88,128	△1,749	△1.9%
売上総利益 (率)	30,358 (34.9%)	29,875 (35.0%)	32,626 (35.8%)	33,009 (36.7%)	33,061 (37.5%)	+52 (+0.8p)	+0.2%
販売費及び一般管理費 (率)	22,854 (26.3%)	23,400 (27.4%)	23,414 (25.7%)	23,789 (26.5%)	24,070 (27.3%)	+281 (+0.8p)	+1.2%
営業利益 (率)	7,504 (8.6%)	6,475 (7.6%)	9,212 (10.1%)	9,219 (10.3%)	8,991 (10.2%)	△228 (△0.1p)	△2.5%
経常利益 (率)	7,561 (8.7%)	6,732 (7.9%)	9,088 (10.0%)	9,274 (10.3%)	9,161 (10.4%)	△113 (+0.1p)	△1.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	4,439 (5.1%)	4,101 (4.8%)	6,459 (7.1%)	8,030 (8.9%)	7,064 (8.0%)	△966 (△0.9p)	△12.0%

1. 損益計算書の状況

◆1-6 親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前第1四半期連結累計期間に繰延税金資産の回収可能性の見直し等による法人税等の減少があった反動により、前年同期比12.0%減の70億円となりました。



(単位:百万円)

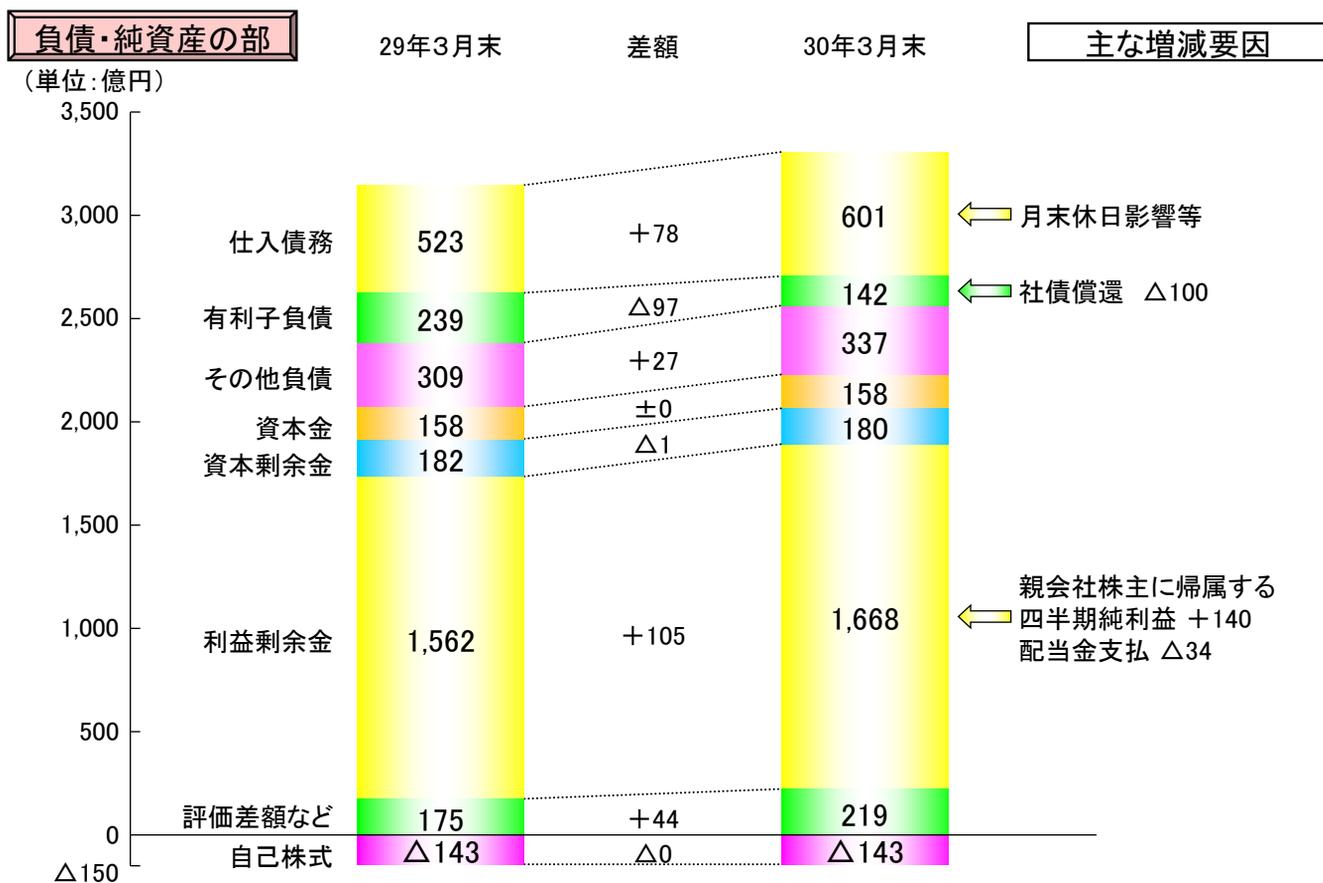
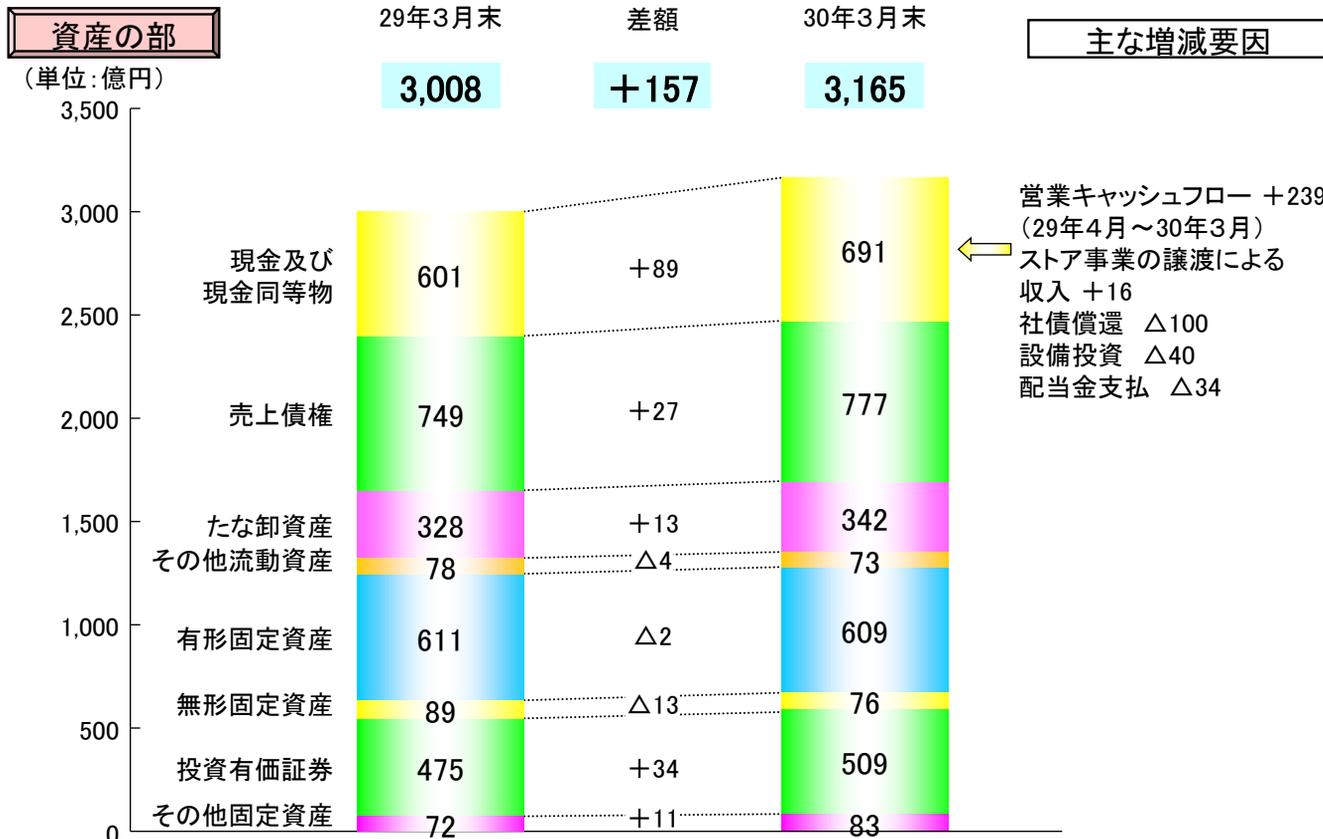
	26年12月期 第1四半期	27年12月期 第1四半期	28年12月期 第1四半期	29年12月期 第1四半期	30年12月期 第1四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
経常利益 (率)	7,561 (8.7%)	6,732 (7.9%)	9,088 (10.0%)	9,274 (10.3%)	9,161 (10.4%)	△113 (+0.1p)	△1.2%
特別損益	+56	+26	△45	△59	+820	+879	-
特別利益	+56	+1,266	-	-	+820	+820	-
特別損失	-	△1,240	△45	△59	-	+59	-
税金等調整前四半期純利益 (率)	7,617 (8.8%)	6,758 (7.9%)	9,042 (9.9%)	9,214 (10.3%)	9,982 (11.3%)	+768 (+1.1p)	+8.3%
法人税等	3,178	2,656	2,583	1,184	2,917	+1,733	+146.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益 (率)	4,439 (5.1%)	4,101 (4.8%)	6,459 (7.1%)	8,030 (8.9%)	7,064 (8.0%)	△966 (△0.9p)	△12.0%

2. 貸借対照表の状況

総資産は、前年同期末より157億円増加し、3,165億円となりました。

※比較のため前期の数値は29年12月期第1四半期(29年3月末)を使用しており、決算短信記載の数値と異なります。

※億円未満を切り捨てて表記しています。そのため合計が一致しない場合があります。



3. キャッシュフロー・設備投資の状況

<キャッシュフロー>

営業キャッシュフローは+21億円、投資キャッシュフローは△0億円となり、フリーキャッシュフロー(※)は+20億円となりました。
また、財務キャッシュフローは△15億円となりました。

以上の結果、当期末の現金及び現金同等物は、期首から4億円増加し、691億円となりました。

(※) フリーキャッシュフロー=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー

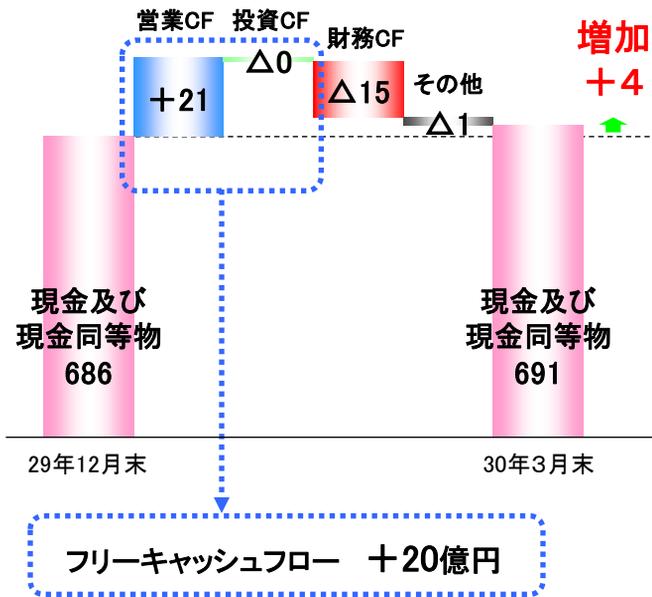
<設備投資>

設備投資は、5億円を実施しました。

※億円未満を切り捨てて表記しています。そのため合計が一致しない場合があります。

□ 現金及び現金同等物の増減内訳 30年12月期 <1~3月>

(単位:億円)



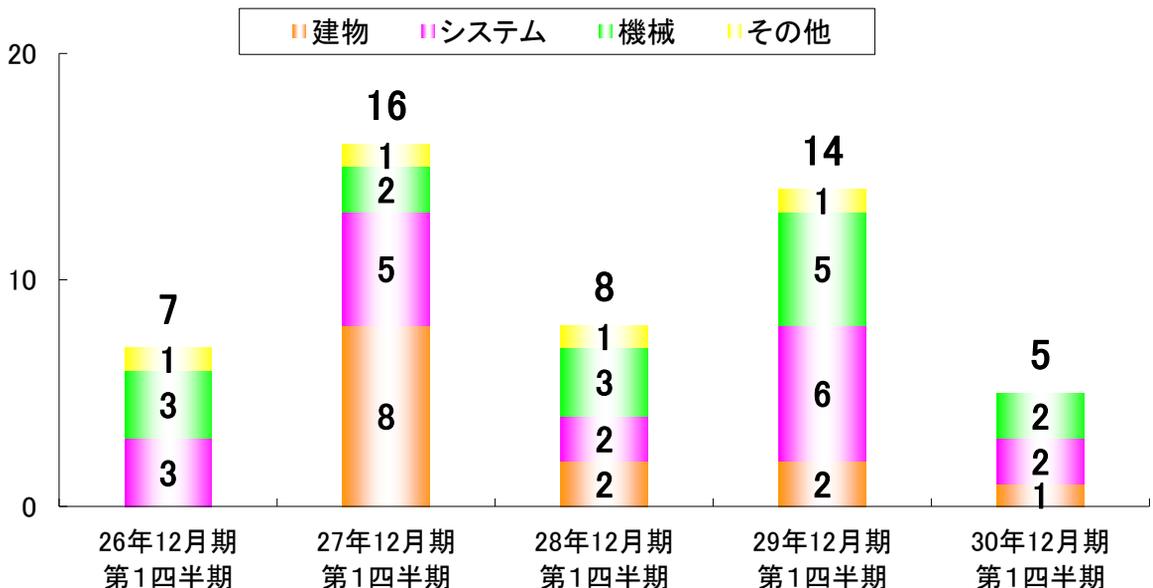
□ キャッシュ・フロー計算書 30年12月期 <1~3月>

(単位:億円)

◆営業キャッシュフロー	+21
税金等調整前四半期純利益	+99
賞与引当金の増減	+19
減価償却費	+15
債権債務の増減	△46
たな卸資産の増減	△35
法人税等の支払	△30
◆投資キャッシュフロー	△0
投資有価証券の売却	+4
設備投資	△5
その他	+1
◆財務キャッシュフロー	△15
借入金の増減	+6
配当金の支払	△18
リース債務の返済	△3

□ 設備投資の推移

(単位:億円)



4. 事業セグメントの損益状況

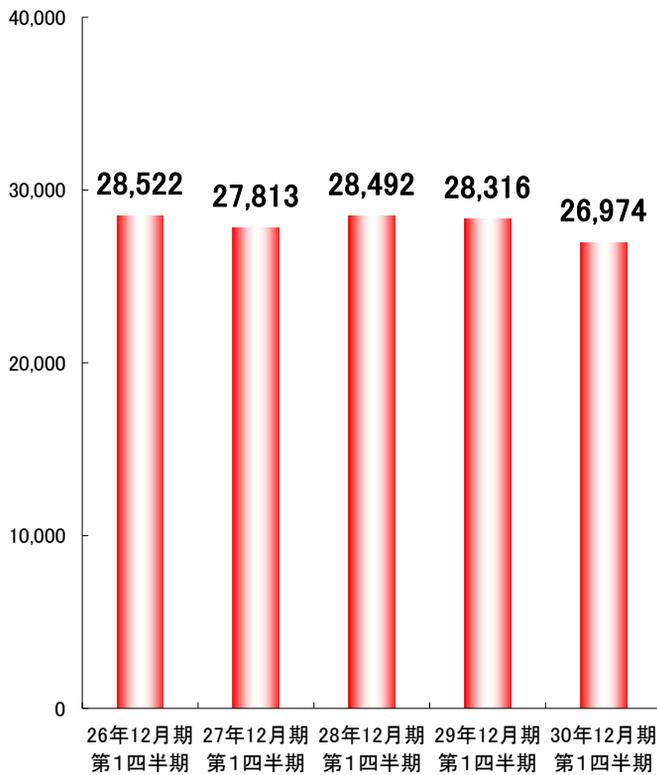
◆4-1 ステーションナリー関連事業

売上高は、海外事業が堅調に推移した一方、国内事業が定番品の減少、新製品の不振等の影響により減収となり、前年同期比4.7%減の269億円となりました。

営業利益は、国内事業の減収に伴う売上総利益の減少等により、前年同期比12.0%減の29億円となりました。

売上高

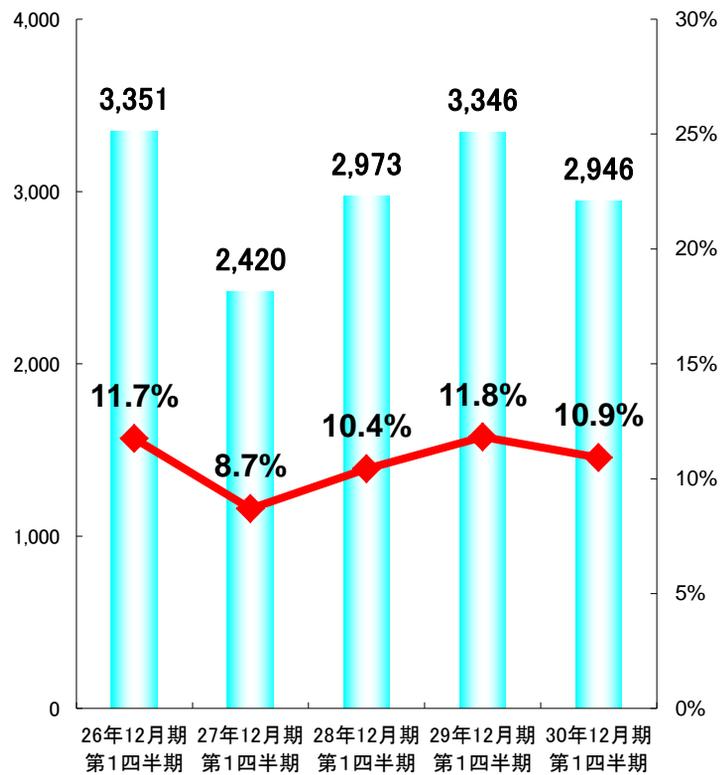
(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)

◆売上高営業利益率



(単位:百万円)

	26年12月期 第1四半期	27年12月期 第1四半期	28年12月期 第1四半期	29年12月期 第1四半期	30年12月期 第1四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	28,522	27,813	28,492	28,316	26,974	△1,342	△4.7%
営業利益 (率)	3,351 (11.7%)	2,420 (8.7%)	2,973 (10.4%)	3,346 (11.8%)	2,946 (10.9%)	△400 (△0.9p)	△12.0%

※売上高は、外部売上高と内部売上高を合算した数値を記載しております。

※当社は、平成27年10月1日付の連結子会社2社との合併に伴い、純粋持株会社から事業会社に移行したため、平成28年12月期より、連結子会社に対するグループ経営運営料の徴収を廃止しております。

4. 事業セグメントの損益状況

◆4-2 ファニチャー関連事業

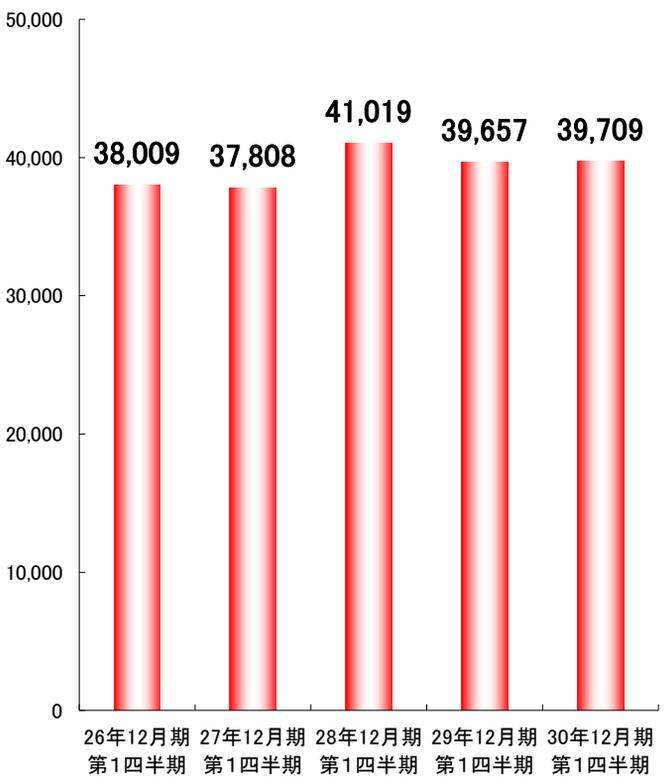
売上高は、オフィス家具販売が好調に推移し、店舗用什器の製造・販売等を行うストア事業の譲渡(※)による減少影響を補い、前年並みの397億円となりました。

営業利益は、オフィス家具販売の増収に伴う売上総利益の増加に加え、コストダウンの推進及び商品ミックスの改善等による売上総利益率の向上により、前年同期比11.7%増の66億円となりました。

※平成30年1月1日に、ファニチャー関連事業のうち、店舗用什器の製造・販売等を行うストア事業を会社分割し、三協立山(株)に承継しました。ストア事業の会社分割に伴う売上高の減少額は、28億円(平成29年12月期 第1四半期実績)となります。

売上高

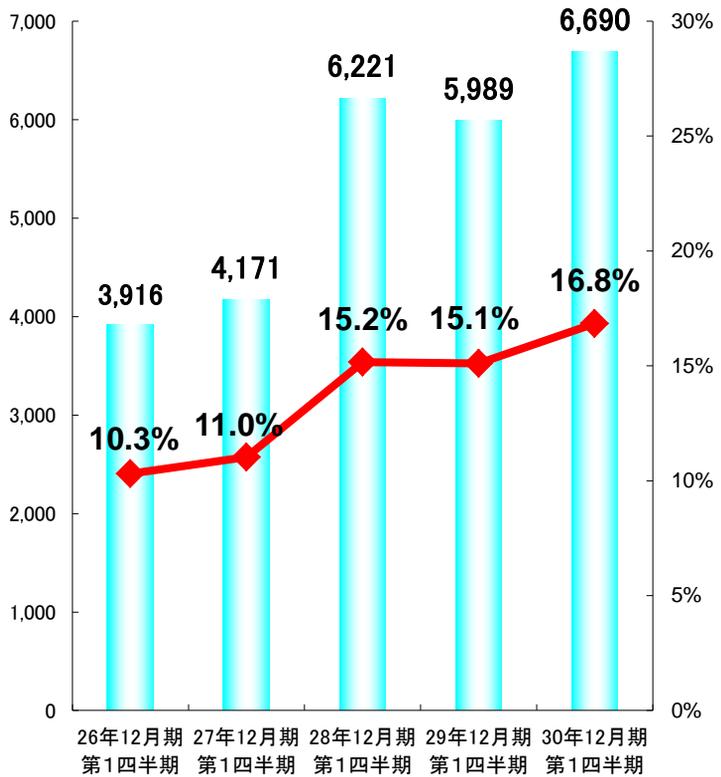
(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)

◆売上高営業利益率



(単位:百万円)

	26年12月期 第1四半期	27年12月期 第1四半期	28年12月期 第1四半期	29年12月期 第1四半期	30年12月期 第1四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	38,009	37,808	41,019	39,657	39,709	+52	+0.1%
営業利益 (率)	3,916 (10.3%)	4,171 (11.0%)	6,221 (15.2%)	5,989 (15.1%)	6,690 (16.8%)	+701 (+1.7p)	+11.7%

※売上高は、外部売上高と内部売上高を合算した数値を記載しております。

※当社は、平成27年10月1日付の連結子会社2社との合併に伴い、純粋持株会社から事業会社に移行したため、平成28年12月期より、連結子会社に対するグループ経営運営料の徴収を廃止しております。

4. 事業セグメントの損益状況

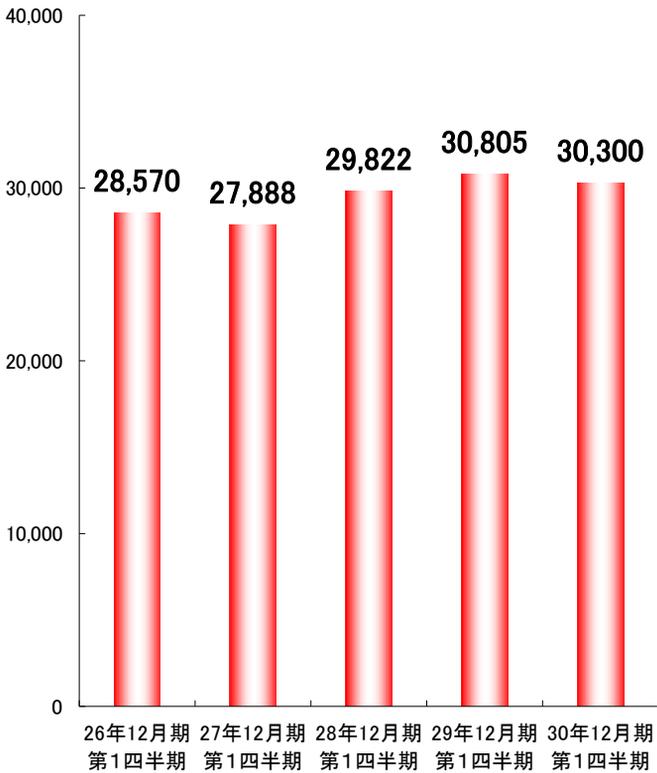
◆4-3 通販・小売関連事業

売上高は、カウネットが新規顧客獲得の不振に伴う顧客数減少等により、また、アクタスが一部店舗において改装のための閉店期間があったこと等により、前年同期比1.6%減の303億円となりました。

営業利益は、減収に伴う売上総利益の減少等により、前年同期比16.8%減の10億円となりました。

売上高

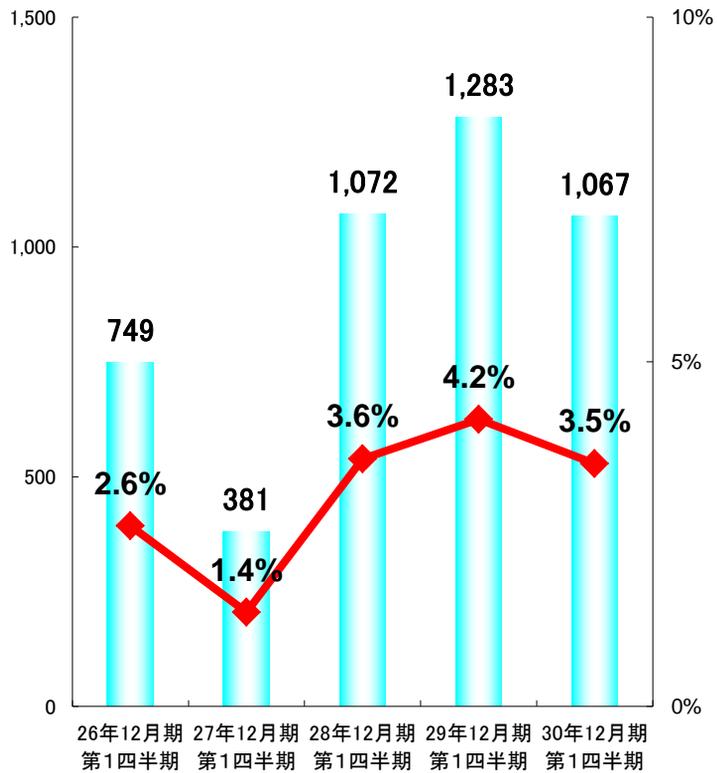
(単位: 百万円)



営業利益

(単位: 百万円)

◆ 売上高営業利益率



(単位: 百万円)

	26年12月期 第1四半期	27年12月期 第1四半期	28年12月期 第1四半期	29年12月期 第1四半期	30年12月期 第1四半期	前年差額 (前年率差)	増減率
売上高	28,570	27,888	29,822	30,805	30,300	△505	△1.6%
営業利益 (率)	749 (2.6%)	381 (1.4%)	1,072 (3.6%)	1,283 (4.2%)	1,067 (3.5%)	△216 (△0.6p)	△16.8%

※売上高は、外部売上高と内部売上高を合算した数値を記載しております。
 ※当社は、平成27年10月1日付の連結子会社2社との合併に伴い、純粋持株会社から事業会社に移行したため、平成28年12月期より、連結子会社に対するグループ経営運営料の徴収を廃止しております。

5. 30年12月期の見通し

平成30年12月期の業績予想は、平成30年2月13日に発表しました「平成29年12月期 決算短信」に記載の業績予想から変更はありません。

第2四半期累計

(単位:百万円)

	29年12月期 第2四半期累計 実績 (6ヶ月)	30年12月期 第2四半期累計 予想 (6ヶ月)	前年差額	前年率差	増減率
売上高	165,818	166,300	+482		+0.3%
ステーションリー	52,642	53,800	+1,158		+2.2%
ファニチャー	70,417	68,500	△1,917		△2.7%
通販・小売	59,685	61,100	+1,415		+2.4%
調整額	△16,927	△17,100	△173		-
営業利益(率)	12,830 (7.7%)	12,500 (7.5%)	△330	△0.2p	△2.6%
ステーションリー(率)	4,881 (9.3%)	5,000 (9.3%)	+119	+0.0p	+2.4%
ファニチャー(率)	8,090 (11.5%)	8,600 (12.6%)	+510	+1.1p	+6.3%
通販・小売(率)	2,660 (4.5%)	2,500 (4.1%)	△160	△0.4p	△6.0%
調整額	△2,801	△3,600	△799		-
経常利益(率)	13,600 (8.2%)	12,650 (7.6%)	△950	△0.6p	△7.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益(率)	10,983 (6.6%)	9,600 (5.8%)	△1,383	△0.9p	△12.6%

通期

(単位:百万円)

	29年12月期 通期 実績 (12ヶ月)	30年12月期 通期 予想 (12ヶ月)	前年差額	前年率差	増減率
売上高	315,622	318,000	+2,378		+0.8%
ステーションリー	97,846	100,400	+2,554		+2.6%
ファニチャー	131,284	127,100	△4,184		△3.2%
通販・小売	119,136	122,600	+3,464		+2.9%
調整額	△32,644	△32,100	+544		-
営業利益(率)	17,591 (5.6%)	18,000 (5.7%)	+409	+0.1p	+2.3%
ステーションリー(率)	7,486 (7.7%)	7,800 (7.8%)	+314	+0.1p	+4.2%
ファニチャー(率)	12,007 (9.1%)	13,100 (10.3%)	+1,093	+1.2p	+9.1%
通販・小売(率)	4,215 (3.5%)	4,100 (3.3%)	△115	△0.2p	△2.7%
調整額	△6,117	△7,000	△883		-
経常利益(率)	19,130 (6.1%)	18,100 (5.7%)	△1,030	△0.4p	△5.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益(率)	15,000 (4.8%)	13,800 (4.3%)	△1,200	△0.4p	△8.0%

※平成30年1月1日に、ファニチャー関連事業のうち、店舗用什器の製造・販売等を行うストア事業を会社分割し、三協立山(株)に承継しました。ストア事業の会社分割に伴う売上高の減少額は、99億円(平成29年12月期実績)となります。
※この資料に記述されている予想数値は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

～テーマは「NEW STORY」～
「コクヨデザインアワード2017」の受賞作品を決定

当社は、使う人の視点で優れた商品デザインを、広く一般ユーザーから集めて商品化をめざすコンペティション「コクヨデザインアワード2017」(作品応募期間:平成29年6月15日～8月31日)で、国内外から応募された合計1,326点(国内:880点、海外:446点)を審査した結果、平成30年1月18日に、受賞作品計4作品を決定しました。

コクヨデザインアワードは、顧客起点でのモノづくりをより強化することを目的に、平成14年のスタート以来、今回で15回目(平成22年は未開催)を迎えます。

近年、『美しい暮らし』(平成27年)、『HOW TO LIVE』(平成28年)と、実用性やデザインの美しさだけでなく、暮らし方や生き方の提案まで問うテーマを掲げてきました。今回は、その方向性に加えて、モノが溢れる時代の中でも新鮮で、「働く」「学ぶ」「暮らす」シーンにおいて、新しいジャンルを確立していけるような力のある作品を期待して、『NEW STORY』というテーマで作品を募集しました。

今回のグランプリ(1作品)の受賞作品は、次のとおりです。

グランプリ(1作品)

※作品名、一般名称、作品概要、受賞者・グループ名は、応募用紙記載の原文です。

作品名: 食べようぐ

一般名称: おやつ

作品概要: 目覚ましのカフェイン、休憩の糖分。おやつも仕事をはかどらせるための重要な用具です。書く、消す、切る、貼る、用具には1つ1つ役割があります。おやつを成分として分解し、姿、居場所を与えてあげることで、オフィスのおやつが用具として働きはじめます。

受賞者・グループ名: によっき(柿木大輔、三谷悠、八幡佑希)



写真: 食べようぐ

～テーマは「ステーションナリーレストラン」～ コクヨ最大規模の文具イベント「コクヨハク」開催

当社は、東京駅に隣接するKITTE(東京都千代田区)の地下1階 東京シティアイにおいて、平成30年3月30日～4月1日の3日間、情報発信型のステーションナリーショップ「コクヨハク」をオープンしました。

「コクヨハク」は、当社の最新文具や話題の商品に実際に触れて体感していただくことを目的に、平成25年から開催している文具イベントです。昨年は2万5千人以上の方にご来場いただく等、毎年大変好評をいただいています。

6回目となる今年のテーマは「ステーションナリーレストラン」。文具を食材や料理に見立てたレストランのような演出を施し、出会ったことのない文具体験をお届けしました。コクヨハク限定のオリジナル商品の販売や、キャンパスノートの主力工場「コクヨ工業滋賀」の「びわこ文具」コーナーや、鳥取県のファイル工場「コクヨMVP」の「オリジナル文具」コーナーに加え、人気のイラストレーターによるライブドローイング等、楽しい企画をご用意しました。



写真:「コクヨハク～ステーションナリーレストラン～」イメージ